

## 「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol. 43

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからご覧いただけます。

### 『「新しい東北」ミーティング in 東京』に出展しました

7月4日に、「新しい東北」官民連携推進協議会（事務局：復興庁）主催「『新しい東北』ミーティング in 東京」が東京都立産業貿易センター浜松町館において開催されました。

岩手大学は、復興支援活動を紹介するブースに出展し、来場された団体・企業や学生の皆様に、本学が三陸地域で行っている具体的な取組内容を説明しました。

岩手大学のブースを見学した竹下亘復興大臣は、本学と久慈市の企業との共同研究により、製品化した水産加工品に興味を持たれるとともに、八代仁三陸復興推進機構長に対して、若い世代が三陸地域に集まれるように、岩手大学の教育や取り組みをしてほしいとの期待を寄せられました。

震災後、釜石市に三陸水産研究センターを設置し、平成28年4月には農学部の水産システム学コースを新設予定である本学にとって励みとなりました。

また、大学生・大学院生を対象としたワークショップ「ボランティア・ワールドカフェ」が企画され、岩手大学三陸復興サポート学生委員会がボランティア活動を



竹下復興大臣（左）と八代機構長（右）

行っている委員長の佐藤希さん（人文社会科学部2年生）と篠崎有花さん（工学部1年生）が参加しました。

「東北のために自分たちは何ができるか」をテーマに意見を交換し、コミュニティ形成、教育、産業、文化など様々な分野から東北にアプローチし、東北で得た知識を持ち帰って広めたり、自分たちなりにつくり変えたりすることで復興に役立てていくのが良いのではないかな等の意見が出ました。

佐藤さんからは「関東、関西の学生と意見交換することで、普段の活動からは気付けなかった新たな視点を得ることができた」、篠崎さんからは「東北以外の地域からでも被災地のためにできることが沢山あるということがわかった」との感想があり、東北以外の学生との交流の中で気づきを得るとともに参加者同士の連携の萌芽のきっかけとなるなど、今後の活動のプラスに繋がる場になりました。

震災後4年が経過した今だからこそ、様々な場所で被災地の現状を訴え、記憶の風化防止に務めていきます。



来場者に本学の取組を説明



ワークショップ  
(中央左：佐藤希さん)

### 減塩加工食品開発セミナーを開催しました

6月11日、エクステンションセンターを設置している宮古市において、市内の水産加工会社を対象とした「減塩加工食品開発セミナー」を開催しました。

被災地の水産加工業界では、東日本大震災後、製造を再開したものの、休業中に販売シェアを県外企業に奪われ、売り上げ面で苦戦している企業が多数います。

今回のセミナーは、高付加価値な商品開発を行い、このような状況を打開していただくのが目的です。

はじめに、三陸水産研究センター新素材・加工部門長である三浦



三浦教授の説明に熱心に耳を傾ける参加者



休憩時間中も商品について相談

靖農学部教授が「減塩加工食品開発ポイント～奪われた販売シェアを回復するために～」と題して講演を行いました。

三浦教授は、岩手大学が目指している従来の水産業「K(勘)・K(経験)・D(度胸)」に大学が有する「Science(科学的知見)」を融合させる「KKDS」モデルの実例として、久慈市の水産加工会社と低温除湿乾燥法を用い共同開発した魚介乾製品を紹介しました。

この魚介乾製品は、天日乾燥による脂質の酸化に伴う生臭や高塩分含有等の課題を、グルコン酸塩・ローズマリー抽出物液に浸してから低温で乾燥することで解決し、高塩分でなくとも消費期限を延ばすことに成功、現在では水産加工会社の主力商品となっています。

このような成功例を挙げ、科学的根拠に基づいた加工食品づくりの重要性を説くとともに、「Science」を活用した加工食品開発を参加者に提唱しました。

講演後の技術相談会では、参加企業から熱心に質問が寄せられるとともに、三浦教授から提唱された減塩加工食品の開発に名乗りを挙げた企業も現れました。

岩手大学では被災地の水産業に貢献できるよう復興推進活動を継続していきます。

# 岩手大学三陸復興プロジェクト

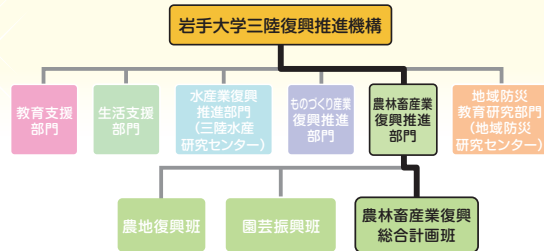
岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、地域資源を活かした観光復興にむけた支援活動を進めている農林畜産復興推進部門・農林畜産復興総合計画班の活動の一例をご紹介します。

## 自然保護を基盤にした観光復興にむけた支援活動

三陸復興推進機構 農林畜産復興推進部門 農林畜産復興総合計画班  
山本 清龍（農学部 准教授）

震災から4年が経過し、観光復興を含めた地域活性化など岩手県を中心に各自自治体等からご相談をいただく機会が増えました。東北は第1次産業を中心として生業を形づくり、森・里・川・海を基盤とする文化を発達させてきた地域です。それゆえ、東北を観光地としてみた場合、旅行者に地域の個性や魅力を伝える仕組みは発展途上であり、そうした仕組みづくりのお手伝い、地域資源を活かした観光復興にむけた支援活動を行っています。

活動の軸は大きく分けて3つあり、1つは観光復興状況調査の実施です。このような取り組みを進める背景には、東北における旅行者の意識調査、観光に関する研究成果の蓄積が少ないという問題意識があり、震災以降、岩手県内では久慈市、八幡平市、花巻市、釜石市、青森県では八戸市等で調査を実施し、その結果を公表してきています。2つ目は、三陸沿岸部の文化の保全、人材育成支援です。たとえば、久慈市小袖地区では平成24年から「北限の海女フェスティバル」のイベント開催支援活動（右の写真）を実施し、イベントで用いるテントの設営、海産物の焼き売り、広報活動等の人手が足りない部分を学生が参加して補っています。3つ目は、三陸復興



国立公園とみちのく潮風トレイルを活用したグリーン復興支援活動です。これは、コンクリートによる復旧、復興ではなく地域の自然資源を活用して減災、復興を図っていくとするもので、これまで、地域の方々から利用してきた道の被災状況調査や沿道の観光資源調査等を実施してきました。また、平成26年にシドニーで開催された国際会議World Parks Congressで三陸の復興状況や今後の方向性について報告するなど海外にむけた発信も積極的に行っています。平成27年度は宮古市の震災メモリアルパーク中の浜等で活動を展開予定です。

総合計画班はその名の通り、包括的に復興の方向性やあり方を検討するための議論の素材を提供することが役割の一つと考えており、今後も地域の中で活動しつつ、ガバナンスや地域との協働などの重要な論点についても整理を進めていきます。



「北限の海女フェスティバル」の開催直前の打ち合わせの様子  
(平成26年8月3日 久慈市小袖)

## 釜石サテライトだより

### ●「水産・海洋セミナー in やまだ」を開催しました

6月8日（月）に、山田町中央コミュニティセンターにて「水産・海洋セミナー in やまだ」を開催しました。

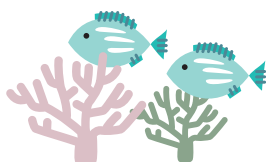
山田湾は、震災の前より多様な生態系を持つために多くの研究機関が研究フィールドとし活動が行われてきました。震災後に岩手大学も山田湾を調査対象として活動を行ってききましたが、地元の方々にとどのような研究活動を行っているか発表する場が今までありませんでした。このセミナーは、山田湾に住む方々に地元ではどのような研究が行われているか、また現在の山田湾の状況がどうなっているかを知って頂くために開催されたものです。

講演者は学外の機関から3名、学内の研究員から2名の計5名で、セミナー受講者は約50名が参加しました。受講者は地元の漁業者・水産関係者・県市町村職員等で、幅広い層の人が参加しました。

東京大学の河村教授が発表された「山田湾周辺の海中の震災前後の変移について」では、津波によって湾のなかでどこが被害が大きく、また回復状況はどうか等、具体的に説明がされました。そのため参加者から今後の資源回復の見通しについて熱心な質問があり、今後の調査の継続性の重要性を再確認することができました。

最後に「牡蠣の春季出荷の可能性について」を発表した岩手大学の澤井特任研究員は、「震災後に、沿岸地域の復興に貢献できるような研究をしたくて山田湾を研究フィールドとして活動してきました。今回のセミナーは、研究を通して明らかになった知識を研究者だけで留めるのではなく、地元の方々を知って頂くいい機会になりました。今回講師の皆さんが発表した内容から少しでもビジネスチャンスが生まれ、地元に戻元できれば嬉しいと思っています。今後は、得られたデータをもとに商品化や販路拡大などにも力を入れ、継続的に活動したいと考えています。」と今後の活動の意気込みを示しました。

岩手大学三陸水産研究センターでは、今後も沿岸地域で継続的に研究活動を進めていきます。それと同時に今回のセミナーのように、地元住民の方々のご理解を深めるためにも広報活動にも力を入れていく予定です。



## 水産・海洋セミナー in やまだ プログラム

### 講演

- 1 山田湾周辺の海中の震災前後の変異について  
東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター 河村 知彦 教授
- 2 鉄と炭で 山田の牡蠣を もっと大きく もっと美味しく  
群馬工業高等専門学校 小島 昭 特命教授
- 3 山田湾のアカモク資源について  
北海道大学大学院水産科学研究院 南 憲吏 特任助教
- 4 織笠川河口は震災後どうなっているのか？  
底生動物から見た震災の影響について  
岩手大学三陸水産研究センター 木下 今日子 特任研究員
- 5 牡蠣の春季出荷の可能性について  
岩手大学三陸水産研究センター 澤井 雅幸 特任研究員

### 情報提供

#### ヨーロッパザラバヤについて

岩手県水産技術センター増養殖部 田老 孝則 上席専門職員



発表する木下今日子特任研究員  
(岩手大学三陸水産研究センター)



発表する澤井雅幸特任研究員  
(岩手大学三陸水産研究センター)

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

### 連絡先 岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト

〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1  
TEL : 0193-55-5691 (代表) / FAX : 0193-36-1610  
E-mail : kamaishi@iwate-u.ac.jp  
URL : <http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/>